

第446回鉄鋼流通問題懇談会

2018年10月25日(木) 14:30

4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室

議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪、愛知、岡山地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇10月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2019年1月 日() : ~ 於:

発表者

発表項目

1. 需給動向（景況感）

- （国内）・日本経済は緩やかな回復基調を続けているが、10月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業でプラス19と前回6月調査から2ポイント悪化（3四半期連続悪化）となった。西日本の豪雨や大型台風、地震などの自然災害に加え、石油・石炭等の原材料価格の上昇が業況感を下押しする形になった。また、3カ月先を示す先行きDIでは製造業・非製造業ともに2～3ポイントの悪化見込みであり、通商問題リスクでの先行きに慎重な見方が増えている。
- ・家計部門については、物価上昇の影響もあって8月の小売業販売額が10ヶ月連続前年同月比でプラスとなり、雇用環境も引き続き企業の手不足感が強く、堅調となっている。
 - ・部門別活動状況は、製造業部門は7月の自動車生産が西日本豪雨等での天候影響により2ヶ月連続のマイナス、8月の機械受注実績は2ヶ月連続で前月比増となった。
- また、建設部門は大型再開発案件や民間土木向けを中心として安定的に推移している。
- （海外）・米国は依然堅調、欧州も総じて底堅く、中国も内需が堅調に推移。ASEAN諸国も全体的に緩やかな回復傾向が継続。
- ・しかしながら、各国の保護主義的通商政策が世界経済に与える影響についての懸念がさらに強まっている。
 - ・10/9に公表されたIMFの見通しでは2018年及び19年の世界経済成長率がともに3.9%から3.7%に下方修正された。

<国内鉄鋼需給>

- （生産）・18年9月の粗鋼生産は前年同月比減（▲2.4%）の842万tとなり、2ヶ月ぶりの減少。
- （出荷）・8月の普通鋼国内向け出荷は359万トン（前年同月比+0.4%）で2ヶ月連続の増加。一方、輸出向け出荷は204万トン（同▲4.2%）と3ヶ月ぶりに減少。
- （在庫）・8月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は596万トン（前月比+27万トン）、2ヶ月振りに増加。
- ・8月末の薄板3品在庫は439万トン（同+19万トン）、2ヶ月振りに増加。
- ・8月末の厚板シャワー在庫は39万トン（同▲1万トン）。3ヶ月連続で減少。

2. 需要産業動向

- 〔建築〕・8月の新設住宅着工戸数は8.2万戸（前年同月比+2%）で3ヶ月ぶりの増加。持家・貸家・分譲ともに増加。
- ・非住宅着工床面積は383万㎡（同▲3%）で2ヶ月振りの減少。製造業・サービス業用は増も、商業用で減。
- 〔自動車〕・9月の国内販売は44.7万台（前年同月比▲2%）で3ヶ月ぶりの減少も、4-9月では前年並み水準。
- ・8月の完成車輸出は37.2万台（同+3%）で3ヶ月ぶりの増加。欧州・アジア向け等堅調。
- 〔造船〕・7月の四輪生産は80.2万台（同▲2%）で2ヶ月連続の減少。西日本豪雨等での部品調達、物流ネック影響。
- ・9月の新造船受注量は67万GT（前年同月比▲12%）の受注。18年9月末の手持工事は2,559万GT（同▲6%）と漸減継続。

3. 輸出入動向

- 〔輸出〕・8月の全鉄鋼輸出は315万トン（前年同月比▲1%）で2ヶ月ぶりの減少。アセアン向けで増加、米国、韓国等で減少。
- 〔輸入〕・8月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は36万トン（前年同月比▲23%）で4ヶ月連続の減少。
- 韓国は6ヶ月連続減（同▲14%）、中国は4ヶ月連続減少（同▲55%）、台湾は3ヶ月連続の減少（▲19%）。

4. 海外市場動向

- ・8月の世界粗鋼生産は、中国やインド、米国等で前年同月比増加、1億5,174万トン（前年同月比+3%）となった。
- ・9月の中国粗鋼生産は8,085万トン（前年同月比+10%）、日当たり270万トン。冬期減産規制前で駆け込み生産量増加。
- ・9月の中国鋼材輸出は595万トン（前年同月比+16%）、2ヶ月ぶりに前年同月比増。前月比でも2ヶ月ぶり増。

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2018年10月）

発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
<p>発表項目</p>	<p>伊藤忠丸紅鉄鋼</p>	<p>岡谷鋼機</p>	<p>J F E 商事</p>	<p>エムエム建材</p>
<p>1. 需給動向 (景況感)</p>	<p>国内建築案件については関東地区の案件を中心に、引き続き需要は強いが、人手不足やフレキシコラム、建築用ボルト、配管材料の材料供給ひっ迫等の要因により、物によりは建築現場がみられる状況。また下期に入り、プラント案件の引合も出てきている状況。その中で仲買取引については、仕入メーカーの納期短縮のための、市中在庫が増えている明確もあり、出荷数値は伸び悩んでいる状況。一部メーカーについては、4Qに更なる受注制限も示されており、更に市中引合がひっ迫する可能性も出てきている。</p> <p>中船はほぼすべての規格でボルトから20リ/kgの値上げが実施されている。規格の値上げは継続している状況。</p>	<p>8月来の薄板二品在庫は439万トンと前月比18万8千トン増加した。例年、8月はメーカーと需要家の稼働日の相違という季節要因から増加する傾向にはあるが、今年はその影響から稼働日から海上、陸送輸送の物流ネットワークが重なり、メーカー間の前月比+18万6千トンと前月比増加したことが主原因。自動車向けなど製造業向け向けは引き続き需要は堅調に推移しているが、汎用メーカー向けにおける末端品に勢いが見られず、車メーカー各社の設備トラブルによる生産調整も発生している。天候不順に加え、メーカー間の引合や引合いは精製を欠いた状態が続いている中、需要動向においては米中貿易摩擦の影響懸念されるものの、足元では製造向け向けは引き続き堅調に推移しており、東京自動車向けや首都圏開発案件等の建設需要の増勢もみられることから、先行きの需給は緩まっていくものと思われる。</p>	<p>8月来の角形板在庫は386千トンで前月比4,490トン減。出荷量が少ない影響を受け、在庫在庫は290.7%で前月比6.3ポイント上昇しているが、前月同月比の在庫量は8,437トン増となった。建築、橋梁、建設、造船等分野で需要は堅調に推移している。汎用メーカー向けも地域により温度差はあるが、徐々に盛上りつつある。メーカー集積は気象条件の影響もあり、上期は長期化している。市中在庫は増減が相対的に見られなくなっているが、汎用メーカー向けも地域により温度差はあるが、徐々に盛上りつつある。メーカー集積は気象条件の影響もあり、上期は長期化している。市中在庫は増減が相対的に見られなくなっているが、汎用メーカー向けも地域により温度差はあるが、徐々に盛上りつつある。</p>	<p>棒鋼 マンション需要は低迷しているが、首都圏の再開案件やオリオンビック関連需要等、昨年より受注してきた契約数の受渡が堅調なことにより、関東地区メーカーの生産水準は一定水準を確保している。</p> <p>形鋼 H形鋼に関しては、本年7-9月のときわ会ベース全国出荷量は86千トンと、前年比+2%、前年同月比横這いの水準。9月末市中在庫はときわ会全国ベース198千トンと過剰感はない状況。10月以降、小口建築需要の回復が期待される。</p>
<p>2. 需要産業動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自動車：18年7月の四輪輸出生産台数80.1万台（前年同月比+2.1%） 2018年4月～2018年7月累計13,123千台（前年同月比+0.1%） 国内、欧州、北米の輸出減少が響き、全体でマイナスとなった。 造船機：18年8月の建造機械輸出額2,159億円（前年同月比+14.3%）（前年同月比+14.9%、輸出+38.1%） 造船機輸出削減 建築：18年7月 住宅28.3万戸（前年同月比+0.7%） 18年7月 非住宅696万㎡（前年同月比+8.8%） 住宅は減、非住宅は堅調に推移。 土木：18年7月 公共土木工事受注額8,102億円（前年同月比+8.7%） 18年7月 民間土木工事受注額12,534億円（前年同月比+15.7%） 18年7月 起工14,778万GT（前年同月比+20.2%） 土木工事受注額は公共・民間土木工事共に減 造船：18年8月 輸送機輸出153万GT（前年同月比+100.2%） 18年8月 手持工事量2,608万GT（前年同月比+2.1%） 	<p>8月の自動車国内販売量は、前年同月比2.5%増の36万4千台と2か月連続で前年実績を上回った。小型車（同▲3.4%）、トラック（同▲4.1%）が減少となったが、取寄せが顕著な軽四輪（同+7.7%）が全体を押し上げた。8月の民生用電気機器の国内出荷金額は、前年同月比+4.6%の1,950億円と4か月連続のアラスとなった。ルームエアコンは前年比+13.1%の655億円、電気冷蔵庫も同+9.9%の449億円と共に大幅増となった。8月は全国別の気温が涼しく、ルームエアコン等の主要製品を中心に高水準を維持したこと、民生用電気機器全体では8月として過去10年で最も高い出荷額となった。8月の新設住宅着工戸数は、前年同月比+1.6%の8万2千戸と3か月ぶりの増加となった。季節調整済年換算値では95.7万戸と前月比ほぼ横ばい。持家、貸家、分譲住宅がそれぞれも増加となったことが要因。非住宅着床面積は、同▲7.6%の383万㎡と2か月ぶりの減少となった。工場は設備（同+1.8%）となったが、店舗（同▲18.3%）、倉庫（同▲17.8%）の大幅減が影響した。倉庫は5か月連続の減少となった。</p>	<p>9月の造船の手持工事は2,559万GTで前月比1.9%減。2年分の工事は確保してはいるが、韓国メーカーの受注も減り、依然減少傾向に欠ける。722億円（前年同月比▲14.9%減、外需は1,436億円（同▲5.0%増）、合計で2,159億円（同▲14.3%増）。内需は部品調達ネットワークから減少となったが、外需は22ヶ月連続の増加となり堅調に推移している。造船機輸出の8月受注金額は合計で3,459億円（前年同月比15.6%減、内需は2,609億円（同▲5.0%増）、外需は890億円（同▲46.4%減）。外需の減少が顕著しく、6月に続き前年同月割れとなった。</p> <p>建築はオリンピックビック関連、首都圏開発案件を中心に需要は堅調に推移しているが、人手不足、残業規制、ハイテクシヨロボットの不足などによる建て遅延の影響が引き続き懸念される。</p>	<p>棒鋼 不動産経済研究所による首都圏マンション発売戸数に關し、2018年4-9月は15千戸（前年同月比▲1千戸）と依然、低水準にて推移。</p> <p>形鋼 建築に關し、2018年度の鉄骨需要量（推定）は540万トン前後と前年度（推定520万トン）比微増にて推移の見通し。大手F&Bの稼働は、来年中盤にかけて当面高い水準にて継続の見通し。</p>
<p>3. 輸出入動向</p>	<p>2018年8月 普通鋼管輸出量： 韓国無鋼管 317万t（前月比+9.4%） 溶融鋳鋼管 491万t（前月比+0.7%）</p> <p>2018年8月 普通鋼管輸入量： 韓国無鋼管 0.14万t（前月比+26.5%） 溶融鋳鋼管 1.32万t（前月比+3.1%）</p>	<p>8月の薄板三品輸出量は熱延が94.2万トン、前年同月比▲16.8%と18か月連続の減少となったが、冷延（21.2万トン、同+11.7%）、亜鉛めっき鋼板（24.5万トン、同+4.9%）が2か月連続で増加した。8月の薄板三品輸入量は、熱延が10.2万トン、前年同月比▲11.9%と13か月連続減少、冷延が6.4万トン、同▲20.4%と2か月連続減少、亜鉛めっき鋼板が6.2万トン、同▲32.0%と2か月ぶりの減少となった。</p>	<p>8月の輸入通関実績は前月比10千トンの29千トン、韓国からの入荷が9千トン減少した。8月の輸出通関実績は前月比13千トンの216千トン。中国向けが10千トン、韓国向けが5千トンそれぞれ減少した。</p>	<p>2018年度4-8月の小形棒鋼輸出量は17千トンと前年同月比▲7千トン、輸入量は2千トンと同比微減とのレベルで推移。</p> <p>2018年度4-8月のH形鋼輸出量は19千トンと前年同月比+5千トン、輸入量は9千トンと同比+2千トンとのレベルで推移。</p>
<p>4. 海外市場動向</p>	<p><油井管> WTIは\$65.75/バレル圏で推移、引き続き米国のシェールオイルは活発であるが、一部地域では、輸送用パイプラインの許容を超える生産となっており、多少減速する懸念がでてきた。中東湾岸産油国の油井管需要は、堅調に推移しているとともに、他地域（インド・パキスタン含めたアジア地域等）からも引合が出てきている。</p> <p><ラインパイプ> 大径管に関しては依然として足元は大型ラインパイププロジェクトが中心に、また20年度は豪州を中心に大型の需要が期待されている。</p>	<p>中国々内の自動車販売が7、8、9月と3か月連続で前年水準を下回った。9月は前年同月比▲11.5%と2桁の減少。これは春節の時期を除けば異例な状況。中国メーカーの薄板関連市況は国慶節明け直後より小幅下落した。その後、中国政府の内需活性化政策により小幅上昇し持ち直した状況。今後の米中貿易摩擦の影響等を注視していく必要がある。</p>	<p>国慶節期間中、ミルは変わらず生産を継続したため、在庫は増加傾向にあり、国慶節明け直後に状況は一時軟化傾向が見られるが、旧正月まで完了させざるための建築需要が盛上り、また、河北省唐山市にある各ミルの生産制限が去年より1.5か月早く10月1日から実施されるため、今後市況は上昇すると予測される。</p>	<p>中国：政府の環境規制に伴う生産調整により、鋼材価格が高止まりしている状況。それに伴い、中国からの鉄筋・ピレット輸出は減少傾向。米中貿易摩擦に伴う米中後退懸念から、中国政府はインフラ投資を積極的に進めており、需要は堅調に推移する見通し。</p> <p>ASEAN：各隣国に建材需要は堅調に推移。北米：米中22条発令により輸入鋼材に対し25%の増徴を課したことにより、鋼材価格は高水準で推移中。トルコ：米中対抗に100万トン以上の鉄筋を輸出していたが、22条による50%の増徴を賦課されたことにより、中東・欧州向け鉄筋、アジア向けピレットを中心に安値オファーも散見される状況。</p>
<p>5. トピックス</p>				